

2009年度 環境活動レポート

(2009.03.01～2010.02.28)



エコアクション21

認証・登録番号 0000488

【改訂履歴】 初版: 2010.6.3	
【エコアクション21認証登】 認証/登録日 2005.11.01 更新/登録日 2009.11.01 有効期限 2011.10.31	【環境活動レポート】 作成: 佐倉井 2010.6.3 承認: 佐倉井 2010.6.3
会社名	株式会社 ブリッジ・メタウェア
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-5銀洋第2ビル8F
代表者	代表取締役 佐倉井 章
連絡先	TEL:045-313-2129 FAX:045-313-2179

目次

No	主題/副題		P
I.	会社概要	1)会社概要 2)事業活動の特徴と環境負荷概要	03
II.	環境方針		04
III.	社内環境コミュニケーション		05
IV.	09年度の環境目標とその実績		
1.	目標設定と調査していない負荷項目について	1)目標設定について 2)調査していない負荷項目について	06
2.	09年度の環境目標とその実績	1-1) 中期目標とその実績(CO2)	07
2.		1-2) 中期目標とその実績(廃棄物)	08
2.	09年度の環境目標とその実績	2)単年度目標とその実績	09
3.	項目別負荷実績	3-1 Co2排出量	10
3.	項目別負荷実績	3-2 電力使用量	11
3.	項目別負荷実績	3-3 ガソリン使用量	12
3.	項目別負荷実績	3-4 廃棄物総排出量	13
V.	主要な環境活動と計画の内容		
1.	主要な環境活動計画の概要		14
2.	環境活動の内容	2-1 CO2排出量の削減(節電対策) 2-2 廃棄物の削減(ゴミの分別) 2-3 廃棄物の削減(紙類の溶解処理依頼)	15
2.	環境活動の内容	2-4 OA機器のリサイクル廃棄依頼 2-5 エコ商品の購入	16
2.	環境活動の内容	2-6 エコ推奨チェックリスト	17
2.	環境活動の内容	2-7 社内エコ促進活動 2-8 チーム-6%への参加 2-9 HP内環境ページの充実	18
2.	環境活動の内容	2-10 緊急事態の対応	19
VI.	環境保全活動の取組結果の評価		20
VII.	環境関連法規への違反・訴訟の有無		21
VIII.	10年度の環境目標	1)単年度目標について	22
IX.	10年度の環境活動計画		23

I. 会社概要

1) 会社概要

表 I 会社概要

社名	株式会社 ブリッジ・メタウェア
事業所	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-23-5 銀洋第2ビル8F
環境管理責任者	代表取締役 佐倉井 章
連絡先	TEL 045-(313)-2129 FAX 045-(313)-2179 e-mail bm-ea21@bridgemw.co.jp URL http://www.bridgemw.co.jp/
事業内容	ソフトウェアの開発・ネットワーク技術支援・web開発・ホスティングサービス
事業規模	2009年度 社員数:8名 事務所面積:99㎡ 税込売上:1.03億円 事業活動規模= $[\text{売上}/\text{社員数}] \times [\text{面積}/\text{社員数}] \times \text{社員数} = 12.75$ (億円・㎡/人)

2) 事業活動の特徴と環境負荷概要

2-1) 事業活動と電力使用

インターネット接続環境を維持するためのサーバ群(ホスティングサービス用含む)は、24時間連続稼働を行っています。
また、それらサーバ群の環境温度調整のために、温調設備の稼働も行っています。
温調設備稼働による消費電力量は、「動力用」として、その他の消費電力量(「電灯用」)と別けて計測されています。
「動力用」の電力使用量は、温調設備を冷房用としてのみ使用するため夏場をピークとする季節変動があります。
「電灯用」の電力使用は、照明電灯及び事務機器(コンピュータを含む)によるものとなります。

2-2) 事業活動と電力使用以外の環境負荷

当社の商品は、無形であるソフトウェアプログラムやシステムサービスの提供です。
このため、商品製造過程での化学物質の排出等はありません。
また、ガソリンの使用は、通勤経路内部分移動・事務機器一時移動・緊急時や打合先移動用として借上げている車の利用によるもので、車の用途自体が商品の配達や巡回営業活動によるものではないため、事業活動規模に比例する部分は、あまりありません。

II. 環境方針

株式会社 ブリッジ・メタウェアは、「問題、ニーズから本質的な解決、サービスを「メタウェア」として創造提供すること。」という企業理念と行動指針をもとに、地球環境の保全に関して自主的かつ積極的な取り組みを行います。

- 1.環境管理体制** 環境担当役員を代表取締役とし、環境管理の責任と権限を明確にして、環境保全活動を推進します。
- 2.法規制の遵守** 国や地方自治体等の環境規制を遵守するとともに、自主管理基準を定めて、環境保全に努めます。
- 3.環境負荷の低減** 事業活動において、CO2排出量の削減、省エネルギー、省資源、廃棄物の分別、削減の目標設定と定期的見直しを行ない、継続的な管理と改善に努めます。

1) CO2排出量の削減

a) 省エネルギー

- 使用電力の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
コンピュータサーバ等の動作維持に必要な電力消費量は、その動作維持条件(台数、室温、湿度など)の見直し、照明を含めた節電や使用機器のエネルギー効率改善を含めた対策で取り組みます。

b) 省資源

- 事務用品等の購入明細の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
エコマーク商品の優先購入、特にパソコンの購入においてはPCリサイクル等のリサイクル対応商品を対象とします。

2) 廃棄物の分別、削減

- 規定した分別廃棄の実施と廃棄時の減容量化に取り組みます。
- 分別種類毎に廃棄量(概算の容量及び重量)の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
- 情報セキュリティ対策
情報資産(個人情報を含む)の廃棄に関しては管理廃棄の対象とし、社内規程類に従い、裁断、破碎など必要な処置を加えるとともに、選定した廃棄委託先に処理を委託して廃棄情報等からの情報漏洩防止に取り組みます。

- 4.教育訓練** 毎月1回の定例会議での環境情報の提供により、環境保全に向けた全従業員の意識高揚を図ります。
- 5.社会との共生** 事業活動の場の提供元との環境保全活動に協力します。
- 6.環境基本方針の公開** このBM-EA21環境基本方針は、社内外に公開します。

株)ブリッジ・メタウェア 代表取締役 佐倉井 章

2008/08/05 改訂 V1.2
2005/04/02 改訂 V1.1
2004/07/12 初版 V1.0
2004/06/30 宣言

Ⅲ. 社内環境コミュニケーション

当社環境方針にて、「毎月1回の定例会議での環境情報の提供により、環境保全に向けた全従業員の意識高揚を図る」(教育訓練)としています。この定例会議時に、資料として月毎の環境活動報告書である「月次レポート」を作成し、EA21の取り組みに対するチェックを行っています。当社での主な環境活動は、一ヶ月周期のPDCAサイクル(下図)であり、かつ「月次レポート」を中心とした「社内環境コミュニケーション」です。その年間のまとめが「環境活動レポート」となります。

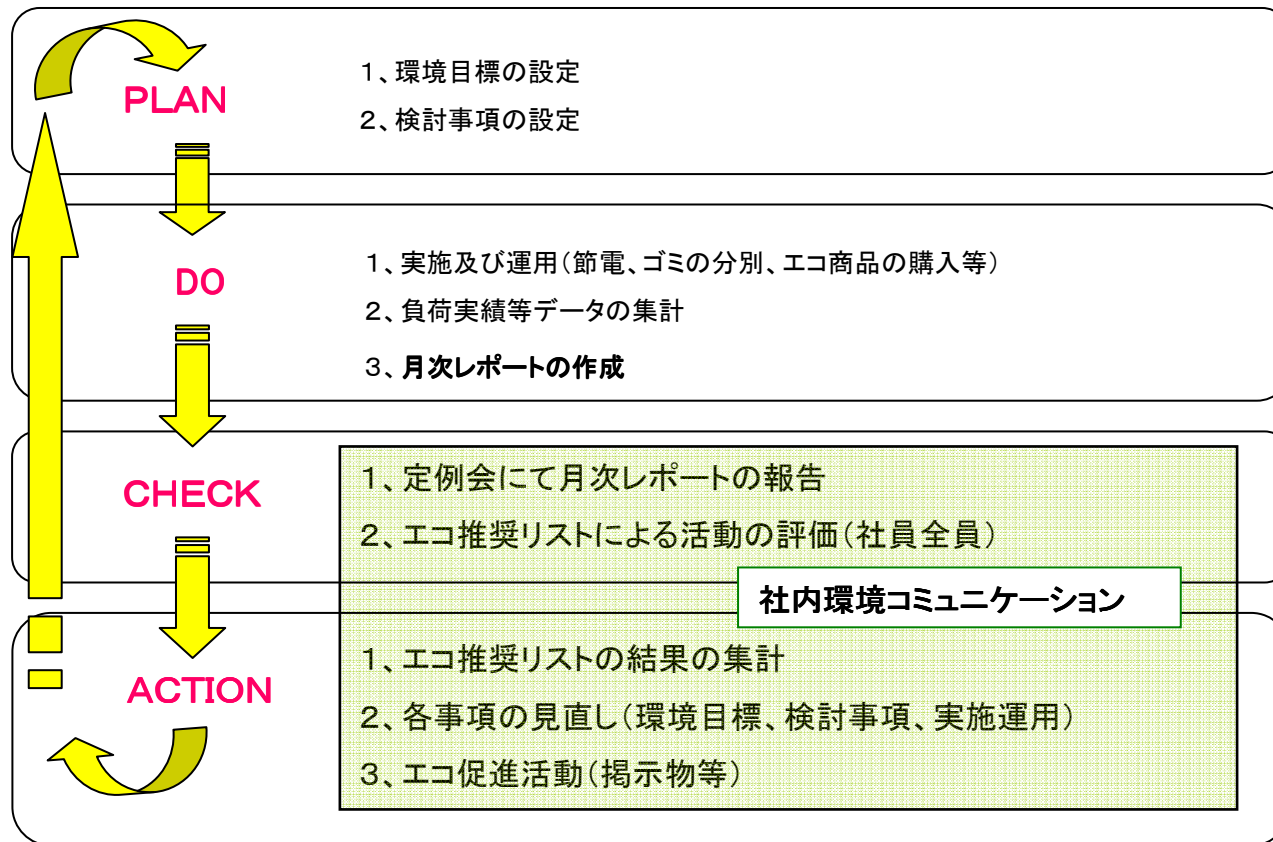


図 Ⅲ-1 一ヶ月周期のPDCAサイクル

IV. 09年度環境目標とその実績

1. 目標設定と調査していない負荷項目について

1) 目標設定について

1-1) 中期目標 ■事業活動規模当りの二酸化炭素排出量の継続低減(~1割低減)

二酸化炭素の排出量の増加は、地球温暖化や酸性雨の原因となり、地球規模の環境問題となっています。

企業も、環境負荷の発生を抑制しながら事業の継続的發展を図ることが必要です。

このため、事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を低減することを環境活動の目的とし、各年度とも事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を前年度より低減(~1割低減)して継続していくことを目標とします。

事業活動規模の算定の要素には、売上、事務所面積、人員数、設備等がありますが、継続して各年度の二酸化炭素排出量の事業活動実績効率として評価するために、事業活動規模を以下で算出することとしました。

$$\text{事業活動規模} = [\text{売上} / \text{社員数}] \times [\text{面積} / \text{社員数}] \times \text{社員数} = [\text{売上} \cdot \text{面積} / \text{社員数}] \quad (\text{億円} \cdot \text{m}^2 / \text{人})$$

1-2) 単年度目標 ■各環境負荷の計画管理目標(前年度実績x事業活動規模比x0.9)による増加抑制・低減

二酸化炭素排出量の具体的な低減には、省エネルギー、省資源、廃棄物削減を心がけ、

事業活動での各環境負担を減らすことが必要になります。それぞれの環境負荷項目は、前述の事業活動規模の算定の要素から各年度で計画管理目標を設定し、最終的に事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を削減できるよう活動を行います。

各年度の計画管理目標は、変化する事業活動規模比を考慮して量の増加がある場合、その増加量分の1割削減量をもって管理目標とします。

2) 調査していない負荷項目について

・総物資投入量

当項目は「原材料・部品・包装材等の消費」という活動に伴う負荷チェック項目ですが、当社の「物資投入量」は、この3点に含まれないと考えるためです。

・水資源投入量

「上水、工事用水、地下水等」を製品生産活動に使用していないためです。

・総排水量

排水をビル全体で管理しているため、会社単体での排水量の把握が困難なためです。

・化学物質排出量

製品生産の過程で化学物質の排出がないためです。

・総製品生産量

当項目は「製品の開発・設計等における環境配慮」の啓発を目的とした項目ですが、当社の開発製品は無形であり、環境配慮に事実上関われないためです。

以上の理由により、上記5項目の環境負荷は測定していません。

IV. 09年度環境目標とその実績

2. 09年度環境目標とその実績

1-1) 中期目標とその実績(CO2)

■事業活動規模当りの二酸化炭素排出量の継続低減(~1割低減)

表 IV-2-1 事業活動規模(億円・㎡/人)と二酸化炭素排出量(t-co2)に関する中期目標とその実績

項目	基準年	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
事業活動規模:計画	5.81	9.11	12.19	21.51	32.01	35.12
① 規模比例:CO2	16.28	25.52	34.18	60.29	89.72	98.43
(CO2/事業活動規模)	(2.80)	(2.80)	(2.80)	(2.80)	(2.80)	(2.80)
② 目標:CO2	-	22.97	27.68	43.95	58.86	58.12
(CO2/事業活動規模)	-	(2.52)	(2.27)	(2.04)	(1.84)	(1.65)
事業活動規模:実績	5.81	10.87	12.94	20.16	16.10	12.75
③ 規模比例:CO2	16.28	30.47	36.27	56.49	45.12	35.70
(CO2/事業活動規模)	(2.80)	(2.80)	(2.80)	(2.80)	(2.80)	(2.80)
④ 実績:CO2	-	19.98	23.71	24.19	20.02	14.16
(CO2/事業活動規模)	-	(1.83)	(1.83)	(1.20)	(1.24)	(1.11)
①-② 削減計画:CO2	-	2.55	6.49	16.34	30.86	40.31
③-④ 削減実績:CO2	-	10.48	12.56	32.30	25.10	21.54
評価	-	○	○	○	○	○
⑤ オフセット:CO2	-	-	-	-	0.70	0.26

⑤のオフセット(09年度)の値(0.26 t-Co2)は、年賀ハガキ(2.6Kg-Co2/枚)の購入(100枚)による

IV. 09年度環境目標とその実績

2. 09年度環境目標とその実績

1-2) 中期目標とその実績(廃棄物)

■事業活動規模当りの廃棄物排出量の継続低減(~1割低減)

表 IV-2-2 事業活動規模(億円・㎡/人)と廃棄物排出量(kg)に関する中期目標とその実績

項目	基準年	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
事業活動規模:計画	5.81	9.11	12.19	21.51	32.01	35.12
① 規模比例:廃棄物	877.65	1376.14	1841.40	3249.27	4773.61	5305.18
(廃棄物/事業活動規模)	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(149.13)	(151.06)
② 目標:廃棄物	-	1238.53	1491.54	2368.72	3131.97	3132.65
(廃棄物/事業活動規模)	-	(135.95)	(122.36)	(110.12)	(97.84)	(89.20)
事業活動規模:実績	5.81	10.87	12.94	20.16	16.10	12.75
③ 規模比例:廃棄物	877.65	1642.01	1954.70	3045.34	2432.04	1926.02
(廃棄物/事業活動規模)	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(151.06)
④ 実績:廃棄物	-	843.00	790.60	417.00	513.00	181.00
(廃棄物/事業活動規模)	-	(77.55)	(61.10)	(20.68)	(31.86)	(14.20)
①-② 削減計画:廃棄物	-	137.61	349.87	880.55	1641.65	2172.52
③-④ 削減実績:廃棄物	-	799.01	1164.10	2628.34	1919.04	1745.02
評価	-	○	○	○	○	○

IV. 09年度環境目標とその実績

2. 09年度環境目標とその実績

2) 単年度目標とその実績

■各環境負荷の計画管理目標(前年度実績x事業活動規模比x0.9)による増加抑制・低減

表 IV-2-2 各環境負荷の計画管理目標とその実績

単位発熱量：購入電力(9.83MJ/kWh)、ガソリン(34.6MJ/l)

環境負荷項目	08年度	09年度						
	実績	事業活動規模 前年度比	削減率	計画管理 目標	実績	目標比較	計画実績比	評価
Co2	20.02 (t-Co2)	1.15 売上計画比	0.9	20.72 (t-Co2)	14.16 (t-Co2)	< 20.72 (t-Co2)	68%	○
電力	433.33 (KMJ)	1.15 売上計画比	0.9	448.50 (KMJ)	336.19 (KMJ)	< 448.50 (KMJ)	75%	○
ガソリン	36.99 (KMJ)	1.0 車台数比	1.0	36.99 (KMJ)	17.13 (KMJ)	< 36.99 (KMJ)	46%	○
廃棄物	513 (kg)	前年度総排出量 (産廃(事務机等)を含む)	1.0	513 (kg)	181 (kg)	< 513 (kg)	35%	○

IV. 09年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-1 Co2排出量

09年度のCO2排出量は、**14,159 Kg-CO2**の実績となりました。

このCO2排出量は、**※管理目標:20,720Kg-CO2の68%**に相当します。

※管理目標=前年08年度実績(20,024 Kg-CO2)×事業活動規模(売上計画比:1.15)×0.9(増分1割削減)

また、08年度実績に対し、前年比**71%**となりました。(08年度実績の修正値:19,155 Kg-Co2に対しては74%)

Co2排出量換算の内訳である環境負荷とその構成比率は、

電力(91.3%)・ガソリン(8.1%)・廃棄物(0.6%)となり、前年08年度[電力(83.2%)・ガソリン(12.4%)・廃棄物(4.4%)]と比較して、

電力量の比率が8.1%増加しました。

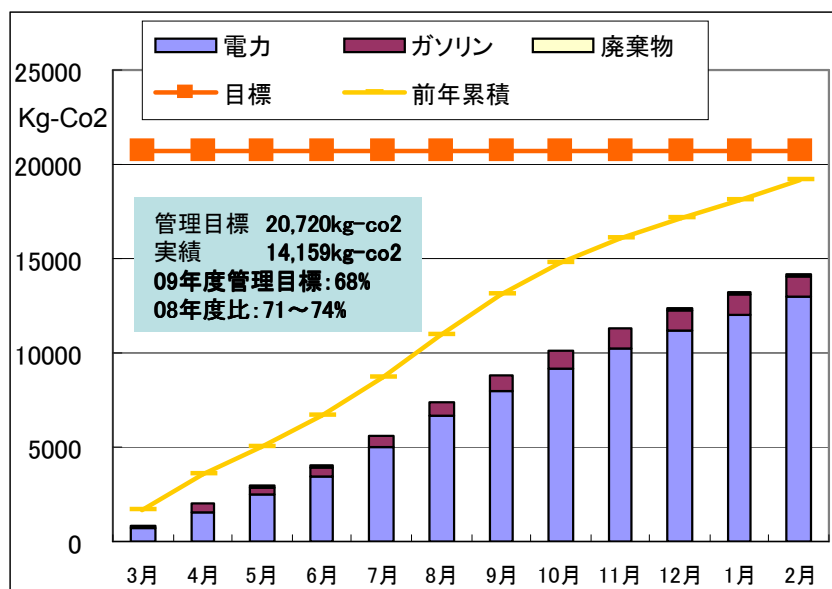


図 IV-3-1-1 09年度月別CO2排出累積量(kg-CO2)

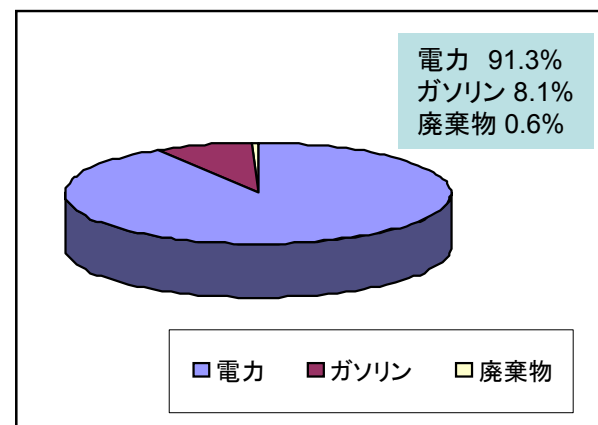


図 IV-3-1-2 09年度CO2排出累積量内訳

IV. 09年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-2 電力使用量

09年度の電力使用量は、**34,200kwh**の実績となりました。

この電力使用量は、**※管理目標: 45,626kwh**の**75%**に相当します。

※管理目標=前年08年度実績(44,082kwh) × 事業活動規模(売上計画比: 1.15) × 0.9(増分1割削減)

また、08年度実績に対し、**78%**となりました。

使用電力換算の内訳である電灯と動力の構成比率は、電灯(72%)・動力(28%)となり08年度[電灯(70%)・動力(30%)]とほぼ同様でした。

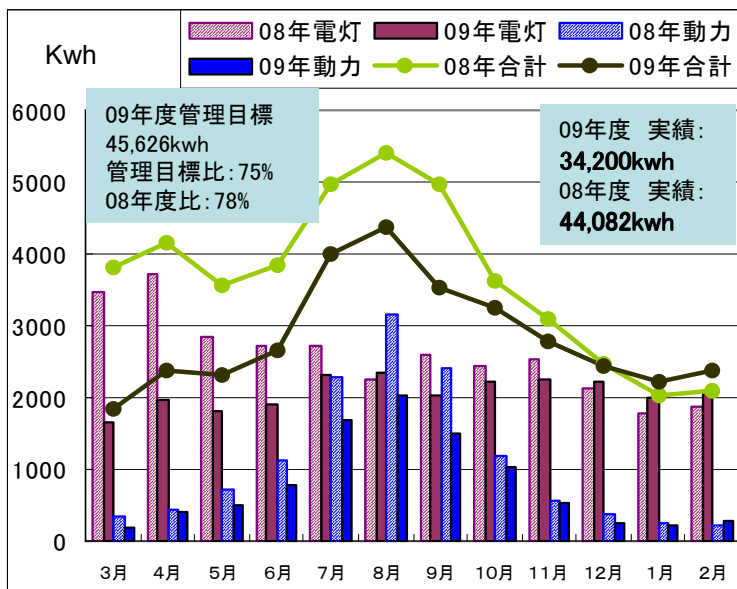


図 IV-3-2-1 09年度月別電力使用量(kwh)

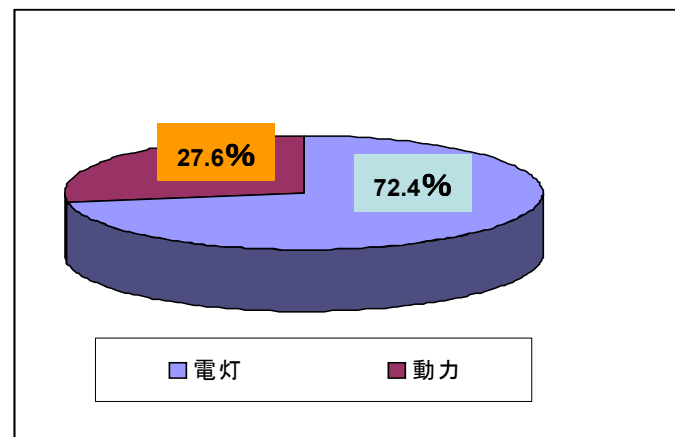


図 IV-3-2-2 09年度電力内訳(電灯、動力)

IV. 09年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-3 ガソリン使用量

09年度のガソリン使用量は、**495.10L**の実績となりました。

このガソリン使用量は、**※管理目標: 1,069.01L**の**46%**に相当します。

※管理目標=前年08度実績(1,069.01L)×借上げ車台数(3台)の計上比(1.0)

期中の12月に借上げ車台数の縮小(3台から1台)を行ったため、年平均では2.5台(83%) となります。

管理目標の83%に対する実績比は、56%に相当します。

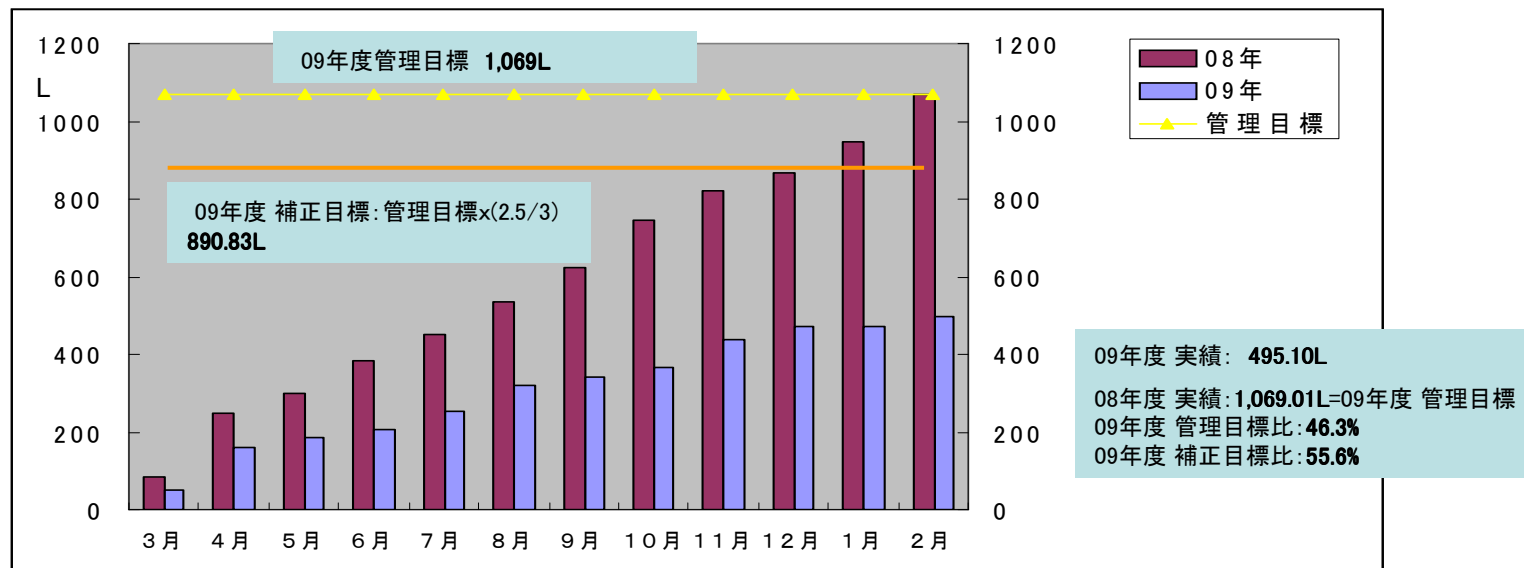


図 IV-3-3 09年度月別ガソリン使用量(L)

IV. 09年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-4 廃棄物総排出量

09年度の廃棄物総排出量は、**181Kg**の実績となりました。

この廃棄物総排出量は、**管理目標:513kg**の**35%**に相当します。

廃棄物の内訳の構成比率は、再生利用できるものでは缶が1.4%、ビンが0.0%、単純焼却のものでは厨芥が52.5%、紙が29.3%、プラスチック類が13.2%、ペットボトルが3.6%で、その他に分類した産業廃棄物は0.0%でした。

08年度の内訳は、(缶:1.3%、ビン:0.9%、厨芥:14.6%、紙:17.6%、プラスチック類:5.4%、ペットボトル:1.9%、産業廃棄物は58.5%)でした。

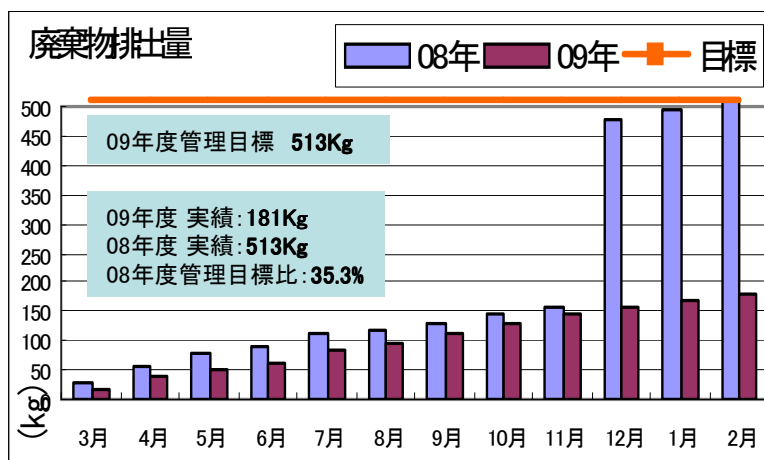


図 IV-3-4 09年度月別廃棄物総排出量(kg)

表 IV-3-4 09年度廃棄物総排出量(kg)内訳

種類	重量(Kg)	割合
再生利用	2.5	1.4%
カン	2.5	1.4%
ビン	0.0	0.0%
OA機器	0.0	0.0%
単純焼却	178.5	98.6%
紙	53	29.3%
厨芥	95	52.5%
ペットボトル	6.5	3.6%
他プラスチック類	24	13.2%
その他	0.0	0.0%
粗大ゴミ	0.0	0.0%
産業廃棄物	0.0	0.0%
合計	181.0	100.0%

V. 主要な環境活動と計画の内容

1. 主要な環境活動計画の概要

表 V-1 主要な環境活動計画の概要

No	環境活動	09年度環境活動計画
1	CO2排出量の削減 (節電対策)	電灯節電に関しては、「照度維持電灯数低減対策」、「不在箇所の消灯」、「待機電力の消費削減」の周知と実施の継続に取組みます。動力節電に関しては、「空調温度設定による稼働節約」、「冷房時の効率化」の周知と実施の継続に取組みます。
2	廃棄物の削減 (ゴミの分別)	6種類(茶殻、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビン)と雑誌・段ボール等の分別を継続して取組みます。
3	廃棄物の削減 (紙類の溶解処理依頼)	エコボックスを積極的に利用し、書類廃棄分の溶解処理による再資源化に継続して取組みます。
4	OA機器のリサイクル処理	OA機器の廃棄の際は、リサイクル処理システムを利用します。
5	エコ商品や カーボンオフセット商品サービスの 優先利用	事務用消耗品類は、必要最小限の購入にとどめ、購入の際にはエコ商品を優先します。また、カーボンオフセット商品やサービスは通常利用の範囲で積極的に活用します。
6	社内エコ促進活動	社内環境コミュニケーションでの取組課題や活動改善の工夫や効率化に取組みます。
7	社外エコ周知活動	ホームページ内環境ページでの環境活動情報発信の工夫や効率化に取組みます。
8	緊急事態の対応	緊急事態に備えた点検、訓練を怠らないようにしていきます。

V. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2-1 CO2排出量の削減(節電対策)

電灯節電に関しては、「不在箇所の消灯」、「待機電力の消費削減」
動力節電に関しては、「空調温度設定による稼働節約」、「冷房時の効率化」
の周知と実施の継続に取り組めます。

事務所内照明蛍光灯に関しては、作業に支障のない範囲で「三波長管+ダミー管+反射板」での節電対応を継続しました。
サーバ室においては、継続して警報通知温度を設定しサーバマシン付近温度を監視しました。
また、事務所内(サーバ室を除く)での「冷房時の効率化」に関しては、サーキュレータによる冷気循環をおこなうことが
周知され、実施されるようになりました。

2-2 廃棄物の削減(ゴミの分別)

6種類のゴミ箱を設置継続で分別を実施、新聞・雑誌及びダンボールは別回収。

茶殻、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビンと6つのボックスを使い、分別を継続しました。
廃棄時はゴミの計量を行い、記録を継続しました。新聞・雑誌及びダンボールは別回収で再利用されています。
ペットボトル、缶、ビン、新聞・雑誌及びダンボールは、週に1度の定められた曜日での排出です。

V. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2-3 廃棄物の削減(紙類の溶解処理依頼)

エコボックスを積極的に利用し、書類廃棄分の溶解処理による再資源化に継続して取り組みます。



管理廃棄用書類や文書等のゴミは、鍵付きエコボックスを利用して処理しています。鍵付きエコボックスの内容物は、金属等混入禁止物の混在がないかを確認して小型の回収依頼用エコボックスに移し替えています。

回収依頼用エコボックスは、封印して回収時まで鍵付きの室内で保管します。

契約先運搬業者に回収運搬されると処理場にてエコボックスごとそのまま溶かし、100%再資源化されます。

溶解処理証明書が発行されます。

写真 [V-2-3 鍵付きエコボックス\(紙類の溶解処理依頼\)](#)

V. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2-4 OA機器のリサイクル廃棄依頼

OA機器の廃棄の際には、リサイクル処理システムを利用する。

09年度のOA機器の廃棄及び廃棄依頼は、ありませんでした。
リサイクル処理や廃棄処理の契約先の候補選定を行いました。

2-5 エコ商品の購入

事務用消耗品類は、必要最小限の購入にとどめ、購入の際にはエコ商品を優先します。
また、カーボンオフセット商品やサービスは通常利用の範囲で積極的に活用します。

09年度の事務用等消耗品の購入に関しては、エコ商品購入を優先するとともに品数と金額を継続記録しました。
エコ商品の購入比率は、品数ベースで10%(08年度7%)、金額ベースで29%(08年度3%)と拡大しました。
購入は必要最小限にとどめており、品数と金額は、ともに減少(品数:34%, 金額:66%)しました。
カーボンオフセット商品の活用に関しては、前年同様に年賀ハガキのみとなりました。

表 V-2-5 エコ商品購入比率

事務用等消耗品購入		09年度	08年度
品数	エコ/全数	2/19	4/56
	エコ比率	10%	7%
金額	エコ	¥11,685	¥1,886
	全額	¥40,922	¥62,424
	エコ比率	29%	3%

V. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2-6 社内エコ促進活動

社内環境コミュニケーションでの取組課題や活動改善の工夫や効率化に取り組めます

関連ルールの周知や省エネを呼びかける掲示物を配置を継続しました。

チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録や2009年度ガイドライン適合確認等都度の報告は、定例会で実施を継続しています。

2-7 社外エコ周知活動

ホームページ内環境ページでの環境活動情報発信の工夫や効率化に取り組めます

09年度も、エコキャラクター「nECO」を会社HPに登場させ、エコ活動の報告をさせたり、エコに関するアドバイス等をメッセージ発信させました。また、月次の環境活動レポートも継続して掲載しています。

チャレンジ25キャンペーンに参加し、ロゴ(リンク含)掲載を行いました。



図 V-2-6 掲示物での周知



図 V-2-7 BMエコキャラクター「nECO」

VI. 環境保全活動の取組結果の評価

表 VI 環境保全活動の取組結果の評価

No	活動	取組	評価
1	CO2排出量の削減 (節電対策)	「三波長管+ダミー管+反射板」での蛍光灯数の削減 サーバ室空調の設定温度調査と調査結果での設定運用 冷房使用時のサーキュレータによる冷房効率の向上	CO2排出量は前年より3割相当を削減できました 電力使用量は前年より2割相当を削減できました LED灯の部分入替を検討する段階です
2	廃棄物の削減 (ゴミの分別)	茶殻、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビンと6種別のゴミ箱の設置継続 新聞・雑誌と段ボールの分別収集場所設定、 排出要件(排出者の限定、計量、曜日指定)の徹底	ゴミの分別は、実施、継続されています。
3	廃棄物の削減 (紙類の溶解処理依 頼)	エコボックス(20Kg/箱)で3箱分を溶解処理依頼	60Kg分相当が溶解処理で100%再資源化されました。
4	OA機器のリサイクル 処理	OA機器の廃棄及び廃棄依頼は、実施しませんでした。 廃棄待ちOA機器や記録媒体は情報セキュリティ対策を行い保管しています。	リサイクル処理や廃棄処理の契約先の候補選定を行いました。再利用可能な未使用PC等の社外排出は、譲渡・移動・廃棄に分類して行うこととしました。
5	エコ商品や カーボンオフセット商 品サービスの 優先利用	必要最小限の購入にとどめ、購入の際にはエコ商品を優先しました。 カーボンオフセット年賀ハガキの購入を行いました。	購入した事務、備品に対する エコ商品購入比率は、品数、金額ともに上昇、 購入金額自体は、品数、金額とも減少しました。 カーボンオフセット年賀ハガキによるオフセット分は 260kg-Co2でした。
6	社内エコ促進活動	月に1度の定例会議にてエコ活動の取組課題の推奨項目提示継続を行いました。 課題が達成されたら新しい項目を追加する取組を、継続できました。	取組み課題の更新や追加継続ができました。
7	社外エコ周知活動	掲示により周知や活動の促進を行いました。	社内掲示で周知・活動促進を図りました。
8	緊急事態の対応	ビル内消防設備点検日の記録、最終退出時記録における周辺消防設備のチェック記録 を継続しています。	消防設備への関心が向上しました。

VII. 環境関連法規への違反訴訟の有無

2009.03.01以前、
2009.03.01～2010.02.28の期間及び、
当該レポート作成完了(2010.06. 03)時点まで、
環境活動法規への違反、訴訟はありません。
当社の事業活動で関連する主な環境関連法規は、
以下の通りです。

- ・廃棄物の処理、清掃
→ [廃棄物の処理及び清掃に関する法律](#)
- ・家電製品、OA機器等のリサイクル
→ [家電リサイクル法](#)
- ・廃棄物削減、再利用
→ [資源有効利用促進法](#)
- ・エコ商品の購入
→ [グリーン購入法](#)
- ・包装容器(ダンボール等)分別収集
→ [包装容器リサイクル法](#)

各関連法規の状況は、右のURL等を参照して、
一ヶ月に一度定期的な確認
(リンク切れ確認を含)を行っています。
また、県庁(神奈川県)や市役所(横浜市)、
チーム-6%の情報も併せて確認を行っています。

表 VII 環境関連法規等

主な関連法規	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	law.e-gov.go.jp/htmldata/S45/S45HO137.html
家電リサイクル法	www.meti.go.jp/policy/kaden_recycle/ekade00j.html
資源有効利用促進法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/02/index.html
グリーン購入法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/09/index.html
包装容器リサイクル法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/04/index.html
その他	
EA21	www.ea21.jp
消防法	www.houko.com/00/01/S23/186.HTM
チーム-6%	www.team-6.jp/
神奈川県	www.pref.kanagawa.jp
横浜市	www.city.yokohama.jp/front/welcome.html

VIII. 10年度の環境目標

1) 単年度目標について

■各環境負荷の計画管理目標(前年度実績×事業活動規模比×0.9)による増加抑制・低減

表 VIII -2 各環境負荷の計画管理目標

単位発熱量: 購入電力(9.83MJ/kWh)、ガソリン(34.6MJ/l)

環境負荷項目	09年度	10年度					
	実績	事業活動規模 前年度比	削減率	計画管理 目標	実績	目標	他換算値
Co2	14.16 (t-Co2)	1.15 売上計画比	0.9	14.66 (t-Co2)	- (t-Co2)	<14.66 (t-Co2)	
電力	336.19 (KMJ)	1.15 売上計画比	0.9	347.96 (KMJ)	- (KMJ)	<347.96 (KMJ)	<35397 (kwh)
ガソリン	17.13 (KMJ)	0.4 車台数比	1.0	6.85 (KMJ)	- (KMJ)	<6.85 (KMJ)	<198 (L)
廃棄物	481 (kg)	前年度総排出量(181Kg)に 廃棄物(PC, 周辺機器、 ケーブル、記憶媒体破材等)	1.0	481 (kg)	- (kg)	<481 (kg)	

注) 購入電力の使用量からのCo2換算には、購入先の排出係数を採用します。
H19年度東京電力(購入電力)の排出係数は、0.425 です。
(09年度以前は、0.378 を固定の排出係数として採用しています)

Ⅸ. 10年度の環境活動計画

10年度は、下表の環境活動を中心に更なる改善に取り組みます。

また、2009年度版ガイドラインへの適合修正・追加等を確認し、当年度内で順次対応する予定です。

表 Ⅸ 10年度の環境活動計画

No	環境活動	10年度環境活動計画
1	CO2排出量の削減 (節電対策)	電灯節電に関しては、「不在箇所の消灯」、「待機電力の消費削減」 動力節電に関しては、「空調温度設定による稼働節約」、「冷房時の効率化」 の周知と実施の継続に取り組めます。 また、電灯の1部をLEDに変更し節電効果を検討します。
2	廃棄物の削減 (ゴミの分別)	6種類(茶殻、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビン)と 雑誌・段ボール等の分別を継続して取り組みます。
3	廃棄物の削減 (紙類の溶解処理依頼)	エコボックスを積極的に利用し、書類廃棄分の溶解処理による再資源化に継続して取り組みます。
4	OA機器のリサイクル処理	OA機器の廃棄の際には、リサイクル処理システムを利用します。 PC等の更新においては、故障していないPC等の処分を 譲渡・移動・廃棄に分類して適切に処理し、リース形態への移行を推進します。
5	エコ商品や カーボンオフセット商品サービスの 優先利用	事務用消耗品類は、必要最小限の購入にとどめ、購入の際にはエコ商品を優先します。 また、カーボンオフセット商品やサービスは通常利用の範囲で積極的に活用します。
6	社内エコ促進活動	社内環境コミュニケーションでの取組課題や活動改善の工夫や効率化に取り組めます。
7	社外エコ周知活動	ホームページ内環境ページでの環境活動情報発信の工夫や効率化に取り組めます。
8	緊急事態の対応	緊急事態に備えた点検、訓練を怠らないようにしていきます。